

氏名	藤 木 茂 篤		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1712 号		
学位授与の日付	昭和61年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	肝硬変症の小腸粘膜における液性および細胞性免疫の検討		
論文審査委員	教授 木村郁郎	教授 太田善介	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

肝硬変症例の腸管局所における液性および細胞性免疫能の変動を明らかにする目的で、十二指腸下行脚より生検した組織を用いて、その腸管粘膜の免疫グロブリン保有細胞、リンパ球のsubpopulation, subsets について酵素抗体法にて染色し免疫組織学的に検討した。肝硬変群では、粘膜固有層のIgA保有細胞は非肝疾患群に比し増加傾向を示し、逆に粘膜固有層、絨毛上皮細胞間のT cellは減少傾向を示した。さらに、肝硬変群を代償性と非代償性にわけて検討すると、非代償性では、粘膜固有層のIgA保有細胞は非肝疾患群に比し有意に増加し、一方、粘膜固有層、絨毛上皮細胞間のいずれにおいてもT cell 特にcytotoxic/suppressor T cellの明らかな減少がみられた。肝硬変、特に非代償性肝硬変では、腸管局所も全身の細胞性免疫の低下を反映しているものと考えられ、液性免疫の亢進即ち粘膜固有層のIgA保有細胞の有意の増加との関連が示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝硬変症の小腸粘膜における液性および細胞性免疫について研究したものであるが、従来十分検討されていなかった生検組織による免疫グロブリン保有細胞、リンパ球のsubpopulation, subsets の免疫組織学的検討において、本症では粘膜固有層、絨毛上皮細胞間にT cell特にcytotoxic/suppressor T cellの減少を認め、一方粘膜固有層のIgA保有細胞は増加することを認め、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。